２００９年（平成21）６月２０日

自治会員の皆さんへ

開地区自治連合会会長　海老温信

**「匿名の投書」について**

―　自治連合会としての考え　―

開地区自治連合は、開ケ丘自治会、一里丘自治会とともに開浄水場存続に向け取り組んでいます。この取り組みは３年前の１月から始まり、宇治市水道部との話し合いを積み重ね、休止する合理的理由がないことが明らかになりました。しかし市水道部は休止方針を変えず、２度も切り替えが強行されるなかで、やむを得ず裁判に訴えた経過があります。

この開浄水場存続の取り組みは、その後、毎年の自治連合会の重要な課題として引き継がれてきました。ところが、この取り組みに対し、連合会長の自宅に匿名の投書がありました。一昨年にも同様のことがあり、役員会で協議して自治連合会長として見解が出されています。今回の匿名の投書に対し、役員会、常任委員会で協議した結果を報告します。

１.投書の内容

・三自治会長連名の会員の皆さんへのチラシに、「勝手にポストに入れるな」とフエルトペ

ンで書かれたもの一通

・「市に無駄な抵抗はやめるように、誰が読んで賛同するか、一部の人しか賛同しない配布は迷惑だ。チラシにお金が掛っている、お金の出処が心配」と書かれた手紙一通。

・差出人　「開住人・常識人より」

２.自治連合会としての考え

１.　連合会の取り組みをできるだけ早くお知らせすることが大切だと考え、２年前からその都度「会員のみなさんへ」を発行しています。詳しい資料等は「自治連合会報」に掲載しています。

大切な情報を、素早く確実に会員の皆様にお届けするには、各戸配布のポスッティングが必要になります。もし、チラシが不要とお考えの場合は、お名前、住所をお知らせ下されば、配布は致しません。

２.　開浄水場存続は、連合会の重要な取り組みです。

飲み水は人の命の元になるものです。開浄水場は歴史的な経緯をもった地域の重要な給

水施設であり、災害時には真っ先に必要になる重要なライフラインで、地域の財産とい

えるものです。

３.　この２年間、自治会員の皆さん方の様々なご尽力とご協力により、浄水場は今日も存

続し給水は続けられています。

自治会規約に基づき設置した第二次水道問題対策委員会の活動、裁判における２００人

を越える原告団、会員の皆さん方からの多額のカンパ、１００通以上の「裁判長への手

紙」、会員世帯の７割以上の方々から寄せられた「ポンプ交換勧告を裁判長に求める署

名」などは、市水道部をはじめ、市議会や裁判の動向に重要な役割を果たしてきました。

４.　開浄水場存続の裁判をするかどうかやその費用に（着手金）については、平成１９年度に役員会、常任委員会での協議のうえ、住民懇談会を５回開催して皆さん方のご意見をお聞きし、決めてきた経過があります。それ以外の裁判費用は、多くの会員の皆さん方の協力によるカンパで進めています。投書に書かれているような「一部の人々だけの取り組みだ！」では、今日まで続けることはできませんでした。

　チラシ代など事務的経費は、役員会、常任委員会で決定した予算に基づき支出しています。裁判所への交通費は、参加してくださっている方々の自腹です。

５.　自治連合会は、皆さん方のご意見をお聞きし、役員会、常任委員会で決めて運営していますがまだまだ不十分なことも多いと思います。ご意見のある方は、匿名でなく直接、自治会長や水道問題対委員、役員にご連絡くださるようお願い致します。

６.　開浄水場の存続問題は、今日大変重要なところに来ています。

　　地下水揚水ポンプが一時停止してから、その交換のために自治連合会として様々な取り組みを行ってきています。裁判長が、宇治市水道部にポンプ交換をしてはどうかといわれ、水道部は苦慮してるようです。

ポンプ交換を実現するために、皆さん方のご協力を改めてお願いいたします。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　![[mame00.gif]]()

（水資源公団パンフフレットから）

開浄水場は宇治市民とって災害時の生命維持に必要な水を供給する大切な施設です。

開浄水場存続問題取り組みにご意見のある方は、開地区自治連合会長又は水道問題

対策委員会長までお寄せください。

２　開浄水場存続の取り組みの重要性

３　匿名投カンへの注意

この内容は、一昨年、当時の会長宛ての「匿名の意見書」よりも乱雑な、チラシにマジックで書きなぐったものでした。

その時は、市水道部にも同じものが送付されていたと聞いています。